

A 国語問題

注意

- 一 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
- 二 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
 (万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
- 三 この問題冊子は20ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は1〜3となっています。
- 四 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
- 五 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
- 六 解答用紙を折り曲げたり、破つたり、傷つけたりしないように注意してください。
- 七 この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

- マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。
- 一 マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
 - 二 一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
 - 三 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①	1 2 3 4 5
0 0 0 0 0	0 0 0 0 0

(3と解答する場合)

一 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

ふるさと列車(詞・小山敬三／曲・船村徹／歌・青木光一)……一九五八(昭和二三)年

ふるさとへ ふるさとへ

汽笛ならして 汽車は行く

恋ものぞみも あこがれも

みんなあきらめ ふり捨てて

故郷へ帰る 汽車の窓

(1) 赤い夕日が さみしいぜ

さようなら さようなら

駅のホームで 手を振って

名残り惜しんで くれたひと

濡れた瞳が おもかげが

なぜかせつなく 目にうかび

男ごころも 泣けるのさ

汽車はゆく 汽車はゆく

青い月夜を 汽車はゆく

捨てていくとせ 帰らない

(2) 母が待つだろ ふるさとを

夜汽車の窓に しみじみと

思い出すのさ 偲ぶのさ

「ふるさと列車」の主人公は、故郷に向かう夜行列車に乗っている。この帰郷は、盆暮れなどの一時帰省ではない。都会暮らしを切り上げて帰郷する男の歌である。彼は出世列車と呼ばれた急行「津軽」で故郷に a を飾るような成功者ではない。都会での恋も望みも憧れも、すべて諦めて故郷へ帰るのだ。蒸気機関車の走行を思わせる軽快なリズムは八ビートで、うつすらとロックンロールの影響が感じられる。ロカビリー・ブームの時代、この年二月には「日劇ウエスタンカーニバル」が多くの若者たちを熱狂させていた。そんなリズムにのつた青木の歌いぶりは端正で、ずぶずぶと濡れた歌にはなっていないが、短調のメロディーはやはり物悲しい。

第二節では、⁽³⁾ 帰郷する男を馱って見送ってくれた女性がいたことが歌われている。女性は名残りを惜しんで涙を流してくれた。男の胸にその姿が浮かんで来て、車中でしんみりする。都会で働いていた期間には、当然のことながら、この男の都会での人間関係が形成されていた。そうした都会の暮らし、人間関係に未練はある。だから都会を離れるのが悲しい。何の未練もなければ、諦めたり振り捨てたりする必要などない。ただ、さつさと故郷に帰ればよいのであって、それほど悲しむことはないだろう。この都会への未練が、ひたすら故郷へと向かう気持ち^(注2)を歌った「おふくろさんは達者かな」と異なる点だ。「おふくろさんは達者かな」では故郷を離れた寂しさが歌われていたのに対して、「ふるさと列車」では都会を離れるつらさが歌われている。この逆方向の気持ちは、ひとりの人間のなかに共存し得る。

都会での仕事や暮らしがうまくいかず、帰郷した者は、実際に数多くいたはずだ。帰郷しなくても、都会暮らしに適応しきれず、故郷に帰りたいと繰り返し思った者もたくさんいただろう。そういう人たちにとつて、この歌はともリアルに聞こえたに違いない。だが、都会暮らしがそれなりに長くなると、都会は離れたい場所になる。都会を去るのがつらく寂しいのは、農山漁村出身者が都会で暮らすうちに、都会的な生活態度や考え方が

感じ方を身につけるせいでもある。その程度は人それぞれだろうが、すでに何らかの都会化を体験し、都会化した部分を内に抱いているからこそ、都会を離れることが切なくなる。

相反する引力を持つ都市と故郷は、対になって意識される。⁽⁴⁾「故郷的なるもの」と「都市的なるもの」はそれぞれ個別に、自己完結的に意識されるのではなく、相互に規定し合うものだった。生まれ育った地とは異なる都市という環境に移動して来た者は「都市的なるもの」を体験することによって、都市とは異なる自らの「故郷的なるもの」をはつきりと認識する。また逆に「故郷的なるもの」との対比によって「都市的なるもの」を明確に認識することになる。

出郷者は都市に住むことで、たとえば都市の人間関係の冷たさに悩む。つまり、都市にどうしても馴染めない「故郷的なるもの」を内に持ち続けている自分を発見する。そこから望郷の [b] を募らせもする。だが、出郷者は都市の生活に慣れていく。もともと都市への憧れもあった。都市には故郷にはない便利さや楽しさがあり、最新の流行にも接しやすく、相対的に自由な人間関係や人生の選択肢も多くあるように見える。故郷とは異なるそうした「都市的なるもの」に同化した自分もまた自覚される。都市をとおして故郷が見え、故郷をとおして都市が見える。その両方が自分の内にある。出郷者のアイデンティティーは、そのような複合的アイデンティティーだ、と成田龍一は指摘している。

「ふるさと列車」には、そうした複合的アイデンティティーが歌われている。夜行列車に揺られている男は、⁽⁴⁾後ろ髪を引かれながら都市を離れて行くが、青い月夜を行く列車のなかで、やがてしみじみと故郷を思う。列車は都市と故郷の間を走っているのだが、同時に意識のなかの「都市的なるもの」と「故郷的なるもの」の間も走っている。

⁽⁵⁾都市を去る出郷者は、出生地での元の暮らしに戻るわけではない。「都市的なるもの」をすでに内に持っている以上、戻った故郷にもまた違和感を抱かざるを得なかった。実際、帰郷した青年たちのほとんどが近隣の小都市で職を得て通勤するようになった。つまり準都会的な暮らしを選んだ。それを可能にする都市化の波は、着々と

全国に及び始めていた。それは旧来の農山漁村の共同体が急速に崩壊していく過程であった。

一九五〇年代後半から一九六〇年代にかけて、日本列島各地の農山漁村共同体は崩壊の最終過程を迎えていた。出郷者が帰れる「温かい故郷」は失われていった。それにもかかわらず故郷ソングが数多くヒットしたというのではない。実体としての郷土の崩壊が誰の目にも明らかであったからこそ、人びとは幻想としての故郷にすがりつこうとしたのだろう。

（松村洋『日本鉄道歌謡史』による）

（注）

1 ロカビリー・ブーム——一九五〇年代にロックンロールとアメリカの民謡調歌曲（ヒルビリー）を融合した音楽が世界的に流行する。「日劇ウエスタンカーニバル」は日本での大流行を象徴したコンサート。

2 「おふくろさんは達者かな」——「ふるさと列車」と同じ年に発表された青木光一の曲。

3 成田龍一——日本近現代史を専門とする歴史家。

問

(A) 空欄 a ・ b に入る言葉として最も適当なものを、それぞれ漢字一字で記せ。(ただし、楷書で記すこと)

(B) ……線部(あ)・(い)について。それぞれの意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、それぞれ番号で答えよ。

(あ) 端正

- | | | | | |
|---------------------|-------------------|----------------------|------------------|---------------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 乱れたところがなく、きちんとしている。 | ごまかしがなく、心がこもっている。 | すみずみまで、細心の注意をはらっている。 | 動作が正確で、きびきびしている。 | 感情を表に出さずに、平静を保っている。 |

(い) 後ろ髪を引かれながら

- | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|------------------------|-------------------------|----------------------------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 過去を悔やむ思いが募って、未来に心向けられずに | 何かに脅かされているようで、不安な気持ちを抱いて | 先のことを悲観するあまり、前に進めなくなつて | 執着が残つて、先に進むことができない思いのまま | 過去の思いに浸つて、先のことを考える気持ちになれずに |

(C) ……線部(1)について。主人公が「さみしい」と感じる理由を筆者はどのように解釈しているか。最も適当なもの、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 都会で成功できなかったことに負い目を感じているから。
- 2 今のふるさとのすがたに愛着を感じられないから。
- 3 都会での暮らしや人間関係に未練があるから。
- 4 ふるさとの母が快く受け入れてくれるか不安だから。

5 都会に残した愛する人と別れて暮らすのがつらいから。

(D) —— 線部(2)について。主人公にとっての「ふるさと」について筆者はどのように考えているか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 成功者として帰郷する望みのかなわなかった主人公にとって、汽車の中で「ふるさと」を思い出すことがつかの間の慰めとなっていた。

2 主人公にとって、うまくいかなかった都会での仕事や暮らしの中で、自分を温かく迎え入れてくれる「ふるさと」への思いが心の支えとなっていた。

3 都会での暮らしのすべてをふり捨てて故郷へ帰ろうとしている主人公にとって、母の待つ「ふるさと」が新しい希望の地となっていた。

4 うまくいかなかった都会での暮らしの中で、主人公は自分の内に存在する「ふるさと」的なものにあらためて気づいた。

5 主人公は、自分の帰ることのできる「ふるさと」が都市化の波によって既に崩壊してしまっていることを、ひそかに悟っていた。

(E) —— 線部(3)について。「ふるさと列車」はこの女性と主人公の関係をどのように描いているか。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 「名残り惜しんで」涙ぐんだ様子から、男にも気づかれないうちにひそかな愛を育んでいたことが読み取れ、失ったものの大きさに気づいた男を泣かせている。

2 男に「ふり捨て」られたにもかかわらず、わざわざ駅まで見送りにきて別れを惜しんでくれたことが、女性の優しさと男への深い愛情を示して、男をせつない思いにさせている。

3 女性の様子が思い出されるのを「なぜかせつなく」と表現していることから、男があきらめた、都会でありえたかもしれない恋愛を示して、男を悲しませている。

4 駅のホームで「さようなら さようなら」と男に手を振る姿が、なりふりかまわず男に伝えた女性の一途な気持ちを表しており、それに応えられない男を悲しませている。

5 都会の冷たい人間関係の中で、ひとり見送りにきてくれた女性には、出郷者である男の境遇への深い同情があり、その同情がかえって男をせつない思いにさせている。

(F) ——線部(4)について。都市と故郷の「相互に規定し合う」関係を言い換えている部分を、本文中から句読点を含めて三十字以内で探し出し、その初めの五字と終わりの五字を記せ。

(G) ——線部(5)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 意識のなかに「都市的なるもの」と「故郷的なるもの」を共にもつ帰郷者の多くは、故郷の農山漁村共同体の生活に再び同化することはなく、近隣の小都市で職を得た。

2 都会の生活に馴染めず、意識のなかの「都市的なるもの」を捨てて帰郷した者の多くは、旧来の農山漁村共同体の急速な崩壊によって生活の場を失っていった。

3 意識のなかの「都市的なるもの」と「故郷的なるもの」の矛盾に引き裂かれた帰郷者の多くは、そのどちらからも距離をおいた生活を選ばざるを得なかった。

4 現実には失われていった「温かい故郷」の近隣にある小都市での生活は、帰郷者の多くにとって、「故郷的なるもの」と「都市的なるもの」を両立させる理想の実現となった。

5 都会での生活を通して「都市的なるもの」に同化していた帰郷者の多くは、故郷に馴染めず、再び故郷を出て生活することになった。

(H) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 「ふるさと列車」には、慣れ親しんだ都会での暮らしを切り上げて帰郷する者が感じる、都会を離れるつらさが歌われている。

ロ 「ふるさと列車」がヒットしたのは、都会での仕事や暮らしがうまくいかなかった人々に、歌の内容が

アルに響いたからである。

ハ 「ふるさと列車」には、農山漁村共同体が崩壊していく中で、人々が幻想としての「温かい故郷」にすがりついた過程がリアルに描かれている。

ニ 「ふるさと列車」の時代、都会での暮らしを切り上げて帰郷することは、あらゆる「都市的なるもの」の断絶を意味するわけではなかった。

ホ 「ふるさと列車」の時代の人びとにとって、「母の待つふるさと」のイメージは、すでに幻想になりつつあった。

二 左の文章を読んで後の設問に答えよ。(解答はすべて解答用紙に書くこと)

近ごろ、「クオリア (qualia)」という言葉をよく耳にする。「感覚質」などと訳されることもあるが、そんな訳語を聞いても、どうも分かったようではない。とはいえ確かなのは、このクオリアが、「人間の知識」という問題にかんする、かなり重要なキーワードらしいということである。

まあこういう概念は、厳密な定義を聞いてもピンと来ないのが常なのだ。めげずにおよその説明を試みてみよう。要するにクオリアとは、読者であるあなたの心のなかに生じる、一回かぎりの「感じ」のことに他ならない。もう少し難しくいえば、個々の人間の意識のなかに特定の体験として出現する感覚イメージのようなものである。

よく例にあげられるのは色の質感だ。同じ真つ赤なタイリンのバラを見ても、その感じかたは個人によって

である。ある人は深く鮮烈な色調にうっとりして、ロマンティックな幸福感をおぼえるかもしれない。べつの人は、毒々しい血みどろのサンジョウを思い出し、吐き気がしてくるかもしれない。そしてまたべつの人は、損得勘定以外は頭になくて、このバラは高くつくだろうな、とつぶやくだけかもしれない。

主観的な感じやイメージは、各人の興味や過去の体験、そのときの気分などにも大きく左右される。□なのは当たり前のことだ。

ただ、ここで大切なのは、「同一波長の赤色光を人間の視覚器官がとらえたとき、それが引き起こす印象がさまざまに異なる」というだけにとどまらないことである。そもそも、ある人が感じている「赤」とべつの人が感じている「赤」とは、いったい同じなのか違うのか判定しようがない、という点が肝心なのである。

いや、それなら、なぜ赤信号で止まれという交通ルールが守られているのか、と反論が出てくるかもしれない。共通の赤色を見ているから、交通ルールが機能しているのではないかというわけだ。だが、それは違う。⁽¹⁾

私が見ている赤信号の色Xと、あなたが見ている赤信号の色Yがまったく異なっているとしても、私とあなたはともにきちんと交通ルールを守ることができる。私は信号がX色になると立ち止まり、あなたはY色になると立ち止

まる。二人ともそのように環境に適応（中）して生きていくだけのこと。客観的、絶対的な「赤」なる唯一の事物が存在し、それを全員が正しく認識しなければならぬ必然性などありはしない。

このことは、「痛み」を考えればいつそうはつきりするだろう。

われわれはよく「お腹がむかむかする」とか「胃がしくしく痛む」とか言うことがある。それで自分の辛い感じが相手に通じると信じこんでいる。だがいったい、私の「むかむか、しくしく」とあなたの「むかむか、しくしく」とがびったり同じだという保証はどこにあるのだろうか。私の痛みは、私独自のクオリアなのだ。⁽²⁾

このことは、外国暮らしで病気になると痛感せざるをえない。私は以前、フランスで暮らしたことがあるが、このとき持病の腰痛が再発した。日本より冬の気温はだいぶ低いし、シャワーだけでバスタブのないアパートで冷えたからかもしれない。だが、医者診断をうけたところで、私の貧弱なフランス語でわが腰の、突つ張るとともに腹にズシンとこたえるような重苦しい有りさまを、いったいどのように「正確に」描写すればよいのだろうか。下手をすると誤解され、治療と称して何をされるか分からない——そんな恐怖があつて、病院にも行かずひたすらベッドに横たわっていたものだ。

痛みとはこのように徹底して個人的なものである。いや、痛みだけではない。よく考えれば、われわれの喜怒哀楽をともなう体験はみな、取り替えのきかない個別の身体をベースにしたクオリアから成りたつている。微妙で割り切りがたい感覚にもとづいて、主観的な世界イメージが構成されるのだ。

われわれはよく、情報や知識を共有するとか、心を開いて共感するとか言う。だが、それらはあくまでも、心がほんとうは閉じているという絶望的な事実をふまえた上での、一種の希望以上のものではない。

⁽³⁾ 心とは徹底的に「閉じた存在」なのである。自分の痛みのようなクオリアは、他人には決して分かつてもらえないことが、その証拠といえる。

ところで、世界イメージが宿る「心」はいったいどこにあるのだろうか。

ひとまず、「脳」にあるという回答が出てくるはずだ。心臓にあるというロマンティックな回答をする人は、今

やますます少なくなっている。

脳はいまもつとも注目されている研究分野の一つである。これは、PET（陽電子放射断層撮影法）だのfMRI（機能的核磁気共鳴断層画像法）だのといった、脳自体にあまりダメージを与えることなく、脳内のありさまを計測する技術が急速に発達したためだ。これらの先端技術を利用すれば、これまで推察することしかできなかった心のありさまも科学的に分析できるだろうというわけである。

とはいえ、すべての心のはたらきを脳の活動だけに帰着させるのは、どうも無理がある。むしろ心は、身体全体の活動と関わっていると考えるほうが、はるかに納得がいく。

前述のように、色や痛みなどのクオリアは、知覚器官からえられる感覚や、さらにそれが引きおこす感情と密接にむすびついている。ここで一つ古典的な質問を思いだしてみよう。

それは、「はたして怖いから鳥肌が立つのか、それとも鳥肌が立つから怖いのか？」というものだ。

昔の回答は、「怖いから鳥肌が立つ」がほとんどだった。もう少し一般的にいうと、脅されるなど何らかの理由で、脳のなかに「怖い」という感情が発生し、それが身体の各部分につたわって、鳥肌が立ったり、脚が震えたりするのだ、と考えられていたのである。

しかし、いまの脳科学者は逆に、「鳥肌が立つから怖い」と回答する人が多いだろう。まず全身の身体反応があり、その状態を脳がモニターした結果、「怖い」という言語的体験が生じるという。恐怖だけではない。「笑うから嬉しい」のであり、「泣くから悲しい」のだ。つまり、⁽⁴⁾身体とはいわば感情の原器に他ならないのである。

（西垣通『集合知とは何か』による）

問

(A) 〓 線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。(ただし、楷書^{かいしよ}で記すこと)

(B) 空欄 にはどのような言葉を補ったらよいか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答

えよ。なお、空欄 は二箇所あるが、どちらも同じ言葉が入る。

- 1 融通無碍
- 2 同床異夢
- 3 千差万別
- 4 自由自在
- 5 不即不離

(C) ——— 線部(1)について。その具体的な意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 仮に各人の感じている赤が異なっていたとしても、ともに赤信号で立ち止まることができる。
- 2 万人に共通の赤色という事物が存在しないからこそ、信号無視が一定数存在することになる。
- 3 交通ルールが機能しているから色覚の共通性が生まれる、という逆転した関係が存在する。
- 4 そもそも、交通ルールが守られている根拠を探究することはクオリアを前提にすると無駄である。
- 5 人々が感じている色の違いや共通性は、脳科学の発展によって明らかにされる可能性が高い。

(D) ——— 線部(2)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 言語によって痛みの表現方法はさまざまであるから、日本人が外国語で痛みを的確に表現することはできない。
- 2 私がある言葉で表現しようとする痛みが、同じ言葉で他者が表現しようとするそれと同じである保証はない。
- 3 私が感じている痛みは、私が目にしている色と同じく、社会における現実の行動に影響を与えることはない。
- 4 同じ病気にかかっているとしても、辛い感じを「むかむか、しくしく」と表現するかどうかは各患者の自由である。
- 5 一人一人を取り巻く環境がまったく同じではありえない以上、痛みの感覚も完全に同一ではありえない。

(E) ——— 線部(3)について。その具体的な意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 心はすべてクオリアから成り立っている以上、共感するという体験にも意味はない。
- 2 人々が心の中で感じていることが同じであるのか違うのかを確かめる術はない。

- 3 他者との交流を嫌う人間は、真の相互理解などありえないことに気づいている。
- 4 どれほど高度の言語能力を備えていても、心の中を他者に伝達することは困難である。
- 5 各人の心の中にある主観的な世界イメージは往々にして閉鎖的な内容をもっている。

(F) ——— 線部(4)について。その説明として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 感情は心の中に生じるだけでなく一定の身体反応を生じさせる。
- 2 身体の生理的反応と感情の具体的な内容がそごすることはない。
- 3 身体の科学的探究により感情の発生する仕組みが明らかになる。
- 4 感情を生み出す器官は脳だけでなく身体の全体に及んでいる。
- 5 一定の身体反応が特定の感情をあらわす言語的体験を生み出す。

(G) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 人が色を見て抱くイメージはクオリアだが、人が知覚する色そのものはクオリアではない。

ロ 色よりも痛みのほうが言葉によって表現しにくい。

ハ 感覚をともなう体験を他者と共有することは単なる希望でしかない。

ニ すべての心のはたらきを脳の活動のみによるものと考えるのは不自然である。

ホ 「怖い」という感情はクオリアであるから必ず一定の身体反応をともなう。

三 左の文章は、『源氏物語』の「夕霧」の巻の一節で、夕霧（大将）が、今は亡き親友柏木の妻であつた一条宮に對して恋心を抱いている場面である。これを読んで後の設問に答えよ。（解答はすべて解答用紙に書くこと）

(1) まめ人の名をとりてさかしがりたまふ大将、この一条宮の御ありさまをなほあらまほしと心にとどめて、おほかたの人目には、昔を忘れぬ用意に見せつつ、いとねむごろにとぶらひきこえたまふ。下の心には、かくてはやむまじくなむ月日にそへて思ひまさりたまひける。御息所も、あはれにありがたき御心ばへにもあるかなと、今はいよいよものさびしき御つれづれを、絶えず訪れたまふに慰めたまふことども多かり。

はじめより懸想びても聞こえたまはざりしに、ひき返し懸想ばみなまめかむもまばゆし、ただ深き心ざしを見えたてまつりて、うちとけたまふをりもあらじやは、と思ひつつ、さるべきことにつけても、宮の御けはひありさまを見たまふ。みづからなど聞こえたまふことはさらになし。いかならむついでに、思ふことをもまほに聞こえ知らせて、人の御けはひを見むと思しわたるに、御息所、物の怪にいたうわづらひたまひて、小野といふわたりに山里持たまへるに渡りたまへり。早うより御祈禱の師にて、物の怪など払ひ棄てける律師、山籠りして里に出でじと誓ひたるを、麓近くて、請じおろしたまふゆゑなりけり。御車よりはじめて、御前など、大将殿よりぞ奉れたまへるを、なかなかまことの昔の近きゆかりの君たちは、事わざしげきおのがじしの世の営みに紛れつつ、えしも思ひ出できこえたまはず。弁の君、はた、思ふ心なきにしもあらで気色ばみけるに、事の外なる御もてなしなりけるには、強ひてえまうとぶらひたまはずなりにたり。

この君は、いとかしこう、さりげなくて聞こえ馴れたまひにためり。修法などせさせたまふと聞きて、僧の布施、淨衣などやうのこまかなるものをさへ奉れたまふ。なやみたまふ人はえ聞こえたまはず。「なべての宣旨書きはものしと思しぬべく。ことごとしき御さまなり」と人々聞こゆれば、宮ぞ御返り聞こえたまふ。いとをかしげにてただ一行などおほどかなる書きざま、言葉もなつかしきところ書き添へたまへるを、いよいよ見まほしう目とまりて、しげう聞こえ通ひたまふ。なほつひにあるやうあるべき御仲らひなめりと、北の方けしきとりたまへ

れば、わづらはしくて、まうでまほしう思せど、とみにえ出で立ちたまはず。

(注)

- 1 昔——自分の死後、妻を見舞ってほしいという柏木の遺言。
- 2 御息所——一条宮の母御息所。
- 3 みづからなど聞こえたまふこと——宮自身が応対申し上げなざること。
- 4 御前——従者たち。
- 5 昔の近きゆかりの君たち——柏木の兄弟たち。
- 6 弁の君——柏木の弟。
- 7 思ふ心——一条宮への恋心。
- 8 宣旨書き——代筆。
- 9 北の方——夕霧の正妻、雲居雁。
- 10 けしきとりたまへれば——気配を察知なきっている。

問

- (A) ——線部(1)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 頭が良い人
 - 2 役に立つ人
 - 3 風流な人
 - 4 まじめな人
 - 5 体が丈夫な人
- (B) ——線部(2)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 理想的だ
 - 2 優美だ
 - 3 聡明だ
 - 4 高貴だ
 - 5 魅力的だ
- (C) ——線部(3)の意味として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 一条宮の前では
 - 2 一条宮家の人々には
 - 3 他人が入りする時には
 - 4 親しくない人々には
 - 5 世間の人々には
- (D) ——線部(4)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。
- 1 柏木の遺言を忠実に守ることをずっと続けたく
 - 2 亡き親友への義理立てをやめてしまいたく

3 心をこめて訪問することをやめられそうもなく

4 他人の関係のままではいられずに結婚したく

5 一条宮への思いを断ち切らなければならなく

(E) 線部(5)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 初心に戻って恋する男の優雅な振る舞いをするのもばつが悪い

2 始めの態度に戻って恋心を訴えかけて色めくのも恥ずかしい

3 繰り返し恋をしかけて色めいた態度を取るのもみつともない

4 打って変わって求愛して色めかしい態度を取るのもきまりが悪い

5 急に態度を変えて強引に思いを遂げようとするのも気恥ずかしい

(F) 線部(6)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 なびいてくださることもあるのだろうか

2 心を許してくださることもあるだろう

3 気が緩みなさることもあるに違いない

4 心を開いてくださることはあり得ないなあ

5 好意を持っていただきたいものだ

(G) 線部(7)「なやみたまふ人」とは誰のことか。最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 夕霧 2 一条宮 3 御息所 4 弁の君 5 雲居雁

(H) 線部(8)の現代語訳を八字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(I) 線部(9)の解釈として最も適当なものを、次のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 頻繁に手紙をやり取りする一条宮と夕霧との仲

2 今後どうなるかわからない一条宮と夕霧との仲

3 男女関係になってしまいそうな一条宮と夕霧との仲

4 離婚することになりそうな夕霧と雲居雁との夫婦仲

5 危機を乗り越えられそうな夕霧と雲居雁との夫婦仲

(J) 線部(a)と(c)はそれぞれ誰に対する敬意を表しているか。最も適当なものを、次のうちから一つずつ選び、それぞれ番号で答えよ。ただし、同じ番号を何度用いてもよい。

1 夕霧 2 一条宮 3 御息所 4 弁の君 5 人々

(K) 次の各項について、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 御息所は、娘の寂しさを紛らわす話し相手になってくれる夕霧の訪問を嬉しく思い、心慰む気持ちになっている。

ロ 夕霧は、恋心を隠して、表向きは親友の遺言を守っているふりをしていたため、一条宮とその母御息所に近づくことができた。

ハ 亡き柏木の兄弟たちのほとんどは、それぞれの生活の忙しさに取り紛れて、一条宮のことなど思い出すゆとりもない。

ニ 弁の君は、一条宮に求愛したところ、冷たい態度であしらわれたため、それ以降、一条宮に近づかなくなっている。

ホ 夫夕霧の様子を見た雲居雁は、面倒なことに巻き込まれると思い、一条宮邸を訪問したくても訪問できなくなっている。

【以下余白】

